

経営発達支援事業の内容

(2) 事業内容

①各町による経済動向分析

【中井町】

・「地域経済循環マップの生産分析」を用いて、各町何で稼いでいるかを分析
生産額(総額)1,782億と県下22位で中位であるものの一人当たりの生産額は県下で3位の高さ(23.44万円)である。(2015生産総額>都道府県・市区町村の分布)

2次産業が多くを占め(70.4%)、業種では情報・通信機器58.2%、食料品が16.7%と、2つの業種が多くを占めている。(2015地域内産業の構成割合)

付加価値額においてもその傾向は顕著で2次産業が全体の55.6%を占め、さらにそのうち51.2%を情報・通信機器が占めている。(2015年付加価値額>地域内産業の構成割合)
一人あたりの雇用者所得も県内4位と高い。(2015雇用者所得>都道府県・市区町村の分布)

移輸出入収支額においても第二次産業の収支が530億円と顕著である。なかでも情報・通信機器が670億円と大きく収支でプラスとなっており、主たる収益をあげている一方で、生産額の構成割合も41%(県内1位、全国2位)と大きいため中井町はこの産業に大きく依存していると言える。(2015移輸出入収支額>都道府県・市区町村の分布)

また、1・3次産業では、1次産業が27億円、3次産業が163億円のマイナス収支となっている。

・「まちづくりマップ・From-to分析」を用いて、各町の人動き等を分析
平日の昼間時間帯は早朝時間帯に比べ町民の人口が大きく減るため、町民の町外への移動が多いことがわかる。(4時7,252人→10時5,133人)(2020.1滞在人口の地域別構成割合>市区町村→市区町村グラフ)

一方で、町外から町内へ移動する人数も多い。10時の滞在人口が8,253人であるのに対し、10時の滞在人口が10,113人と大きく差(+1860人)がついているうえに、町民人口が全体の50.76%と町民の人口が減っている以上に町外の人口が多く移動してきている。

一方、休日でも、平日ほどではないが昼間の町外からの滞在人口もやや多い。町民の町外への移動も同様に多い。しかし、夜間の町外からの滞在数は非常に少ない。

また、新型コロナウイルスの影響により、平日・休日ともに総滞在人数が減少しており、県外からの移動も大きく減少している。

	県内		県外	
	2019	2020	2019	2020
平日	11,249人	⇒ 9,575人	223人	⇒ 83人
休日	8,956人	⇒ 8,293人	219人	⇒ 11人

一方で町民の町内滞在人数・率がコロナ以前より多い。外出自粛や在宅勤務等の影響がみられるか。

	2019		2020	
平日	4,465人	39.69%	⇒ 5,571人	58.18%
休日	5,595人	62.47%	⇒ 6,470人	78.02%

しかしながら、町内に留まる人の増え幅より町外からの来町する人の減少幅が大きい。(2019.5・2020.5滞在人口の地域別構成割合>市区町村→市区町村グラフ)

・「産業構造マップ」を用いて、各町の産業の現状などを分析

企業数は大分類では卸売業、小売業が70社、建設業が65社、製造業が54社と続くが、中分類では総合工事業が33社、不動産業物品賃貸業・管理業が25社となる。(2016全産業の構造)

一方で、従業員数や売上高における製造業の占める割合は従業員数38%、売上高51.5%

と大きい。このことから製造業は、企業数は少ないものの、町の雇用や産業の多くを担っているといえる。

- ・ 「観光マップ」による外国人訪問分析、目的地分析、出発地割合、宿泊者数（日本人・都道府県割合）などを分析

外国人の滞在者数は昼間（10-18時）では1月500人と少なく、夜間においては該当データなし。（2019.1外国人滞在分析）

目的地については、自動車での来訪は平日・休日問わず中井PA（下り）が多い。

平日の自動車での来訪も中井PA（下り）が多いものの、次の平塚富士見カントリークラブも並んで多い。（中井 A 下り）1,672回 平塚富士見カントリークラブ1,447回）なお、レインボーカントリー倶楽部の540回は、平塚富士見カントリークラブの36ホールに対し18ホールというラウンド数のキャパシティの面も考慮しなければならない。

休日の公共交通機関での来訪に限定すると中井中央公園が多い。（2019 目的地分析＞指定地域の目的地一覧）

- ・ 「流動人口」「消費の傾向」について各町の分析

流動人口は滞在人口や観光マップに示したものと同様に、平日休日問わず中井 Aに集中している。平日では就労地域としてインター周辺、スーパーマーケットにも集中している。（2017.1 まちづくりマップ流動人口メッシュ）